

外部評価会での意見と次年度普及指導計画等への反映状況について

(所属名) 農業技術振興センター農業革新支援部

- 収量目標として「420kg/10a 以上の実証 1 か所以上」は達成しているが、湖北展示圃で多年生雑草の影響により収量目標が未達成であった。課題である圃場条件による収量格差の解決とはなっていないと思われます。引き続き課題解決に向けた対応をよろしくお願ひします。
- 湖北の実証ほでは多年生雑草の対策として、秋起こしの天地返しによる抑草技術の実証を行っています。この実証結果をもとに、ご指摘にありますようには場条件を踏まえた除草体系を確立し、収量の安定化を図ってまいります。
- 実践農家、志向農家の特性を把握すると効果的ではないか。
- ・オーガニック栽培の安定生産というテーマのもと、年度ごとの課題がどのように配置されているのかをみせて欲しい。
  - ・いわゆる慣行栽培、環境こだわり（特裁）、オーガニックの比較が欲しい。
- ご指摘の通り、有機栽培の普及に当たっては、有機栽培実践農家や志向農家の経営特性を把握し、コストや収益性について慣行栽培や環境こだわり栽培と比較していくことで、個々の農業者の経営にあった有機栽培の導入を図ってまいります。

## 外部評価会での意見と次年度普及指導計画等への反映状況について

(所属名) 大津・南部農業普及指導センター

- 地域農業の振興は地域社会を維持するための手段であり、この点でどのような社会を形成すべきかなど生活面もあわせて目標を設定し普及計画を策定することが有効では。
- 今年度まちづくり協議会と検討してきた特産育成計画について、地域全体の振興策を定めた「まちづくり振興計画」に位置づけられ、その中にはご意見のありましたどのような社会を築きたいかという地域の目指すべき姿が描かれています。本課題ではその将来像が実現するよう特産育成をキーワードとして、普及計画の活動内容に反映させます。
- 写真をみると集まっているのは男性がほとんどのようであるが、他県の例では花は女性をターゲットにしているケースが多く、農家内で誰が担うのかを考えた方がよいのではないか。また、観光との結びつきや、景観作物としての機能も考えられるのではないか。
- 今年度開催しましたリンドウ栽培研修会では女性の方々にたくさん出席していただき、年齢男女問わず特産育成に関心の高い方々を対象と考えております。
- また、リンドウ栽培ほ場を交通量の多い国道沿いに設ける計画であり、将来的に摘み取りなどの観光も視野に入れ、検討しているところです。
- リンドウの市場性について、市場へのヒヤリングとともに、将来にわたって可能性があるのか、必要労働力、収益性の分析などの数字で押さえることが必要と思われる。また、3年後の売り上げ目標について、生産量の拡大が収益確保につながるのか、販路はどうするのかなどよくわからなかった。
- ご意見のあったリンドウの市場性や収益性などについて、今年度の特産育成計画策定の支援により明確にしていくことにしています。
- 地域づくりが大きな柱になる活動であるが、高齢者のみでは難しい。この地域を出ている人達やゆかりのある人達も巻き込むなど、多方面からの参入にも期待します。
- 特産育成部会には地域外に出た方も参画していただき、地域おこし協力隊も含め特産育成に様々な立場の多くの方が関与するよう計画に反映させていただきます。
- ◇ 全体的に経営評価が欠けていたりするケースが目立った。
- 普及計画にはできる限り経営評価を入れるように対応します。

○ : 外部評価課題に対する対応      ◇ : 普及指導計画全体に対する対応

## 外部評価会での意見と次年度普及指導計画等への反映状況について

### (所属名) 甲賀農業普及指導センター

- 新規の果樹産地として生産者のすそ野を広げる必要性は理解できますが、新規の販売先に「市場」をターゲットにする必要性が理解できませんでした。生産者の出荷組合等での新規市場の検討も必要ではないでしょうか。
- 市場関係者との意見交換は必要であるが、多様な販売方法を考えると、幅の広さが重要といえる（あくまでも情報収集・市場調査として）。
  - 出荷先の検討については、多チャンネルの出荷先を確保するため、引き続き地元市場と調整を進めながら、他の市場や小売店・スーパーなど情報収集・市場調査を普及活動に組み入れます。
- 新規部門の導入にともなう費用等を考慮して、経営面の評価が必要。既存農家への普及ならば、既存作目との関係（競合など）を経営全体的にみる必要がある。
  - 新規栽培者確保にかかる研修会における提供資料に表記します。
- なしナビゲーションシステム。黒星病の防除時期のタイミングを告知は人気ということで、非常によい工夫であると思う。しかし、年により環境変動にも影響するので、ITでのデータ化もいれて、ナレッジを取得することが望ましいと感じた。
  - システムの整合性を検証するため、気温等のデータロガーを設置しデータの蓄積を進めます。
- 「人づくり」「産地づくり」「地域づくり」という取り組み視点について、往々にして「地域づくり」の視点が活かされていない。とくに、条件不利地域では、「地域づくり」が最終的な目標となることを理解し活動計画を策定することが必要になる。このことは、手段と目的を逆転させないことと同意である。
  - 多くの条件不利地を抱える甲賀地域にとって、「地域づくり」は重要な課題であるであると認識しています。今後も若手職員を中心にスキルアップを図りながら「地域づくり」に関する活動計画を策定するよう努めます。

## 外部評価会での意見と次年度普及指導計画等への反映状況について

(所属名) 東近江農業普及指導センター

### 【果樹産地における新規就農受け入れ体制の構築と新規就農者の定着による園地継承】

○ 課題設定は問題ないが、目標設定となると、具体的ターゲットを明確にする必要がある。分母を新規就農者数、分子を（数年後の）定着者数として評価するなど、課題を適正に評価しうる評価指標が必要と考える。また、利益目標、資金繰りを設定したほうが、定着の目標になるのではないか。

→ 次年度の普及計画の策定にあたっては、評価指標を十分検討し、課題を適正に評価できる指標の設定に努めます。

○ 梨もぶどうも共通した問題を抱えているので、「果樹産地」としてとりあげるならば、ぶどうに対象を絞る意味付けが必要。

→ 次年度の普及活動にあたっては、課題と対象を整理して行います。

なお、果樹産地の活性化を目指し、ぶどう部会の取組の成果を梨部会にもつなげてまいります。

○ 地域毎、支援対象者毎に有効な支援活動を検討・策定することが求められる。引き続き、支援対象者の実情にマッチした支援活動を実施していただきたい。

→ 対象者個別の支援について、各個別に普及指導計画を策定し、次年度以降も活動に取り組んでいきます。

○ 組織間の役割分担をもっと明確にして欲しい。

→ 協議会を再編し年々充実してまいりましたが、今後も継続して活動してまいります。

### 【集落農業の維持・発展を目指した農地利用調整の体制づくり】

○ 本普及活動を是非、他地域でも展開して欲しい。

→ 本成果を活用し、次年度は管内の別の2集落で普及活動を展開する予定です。

## 外部評価会での意見と次年度普及指導計画等への反映状況について

### (所属名) 湖東農業普及指導センター

- 令和元年度にて目標設定された行動計画の策定・実施が9法人となり、行動計画の実施については目標を達成されている。周辺市町への取り組み拡大を引き続きお願いします。
- 甲良町の取り組みを周辺市町へも広げていきたいと考えており、令和元年度には豊郷町で人材育成について普及計画を立て、研修会を実施し、行動計画を策定する取り組みを実施しました。
- 彦根市・愛荘町・多賀町などでも人材育成の取組の意向を持っており、甲良町での取り組みを啓発しながら意欲ある地域で取り組めるよう推進していきます。
- 集落営農の後継者問題について、この普及員の方のナレッジ（個人が有している知識）を整理して、他の普及員様から他の同じ課題をもつ地域に展開できるようになれば、後継者の課題解決に向けての活動がより短縮化ができてよいのではないかと感じました。
- 普及計画の進捗確認や検討の場で報告してきました。このなかで、この普及員のナレッジを利用して豊郷町6法人でも人材育成の課題に取り組み始めています。豊郷町では取り組みを深化させるため、次代を担う若手や女性との合同の打ち合わせも検討しています。
- また、このナレッジについては改定する地域戦略指針の中で事例として掲載し、県全域でも参考にしてもらえるように取り組んでいます。
- ◇ 期間が3年程度と短いせいもあるが、対象作物あるいは部分技術に活動対象が絞られるあまり、他部門との競合・補完関係が十分にみられず、経営全体をみる視点が欠けることがしばしば見受けられる。全体的に経営評価が欠けていたり不十分であったりするケースが目立った。
- 経営全体を見る視点が重要であることを職員にしっかり周知し、経営評価できるものについてはこれを行うことにより、取り組みの効果を判断していけるようにします。

○：外部評価課題に対する対応      ◇：普及指導計画全体に対する対応

## 外部評価会での意見と次年度普及指導計画等への反映状況について

### (所属名) 湖北農業普及指導センター

- 小麦から大麦への麦種転換に伴い、大麦の適地について検討はされているか。
  - 一般的に、大麦は小麦と比べて耐寒性に優れ、気象の面での適応性は高く、湖北地域の小麦で問題の縞葉枯病や黒節病についても、転換により抑制できる可能性もあり、現状では大麦での発生は少ない状況です。これらから、大麦は小麦よりも湖北地域の広い範囲が適地であると考えられます。ただし、大麦は小麦と比べて、酸性の土壌や湿害に弱く、土づくり対策や排水対策の実施が必須であり、小麦よりも赤かび病に弱いため、2回防除が必須であること等、大麦に必要な管理を行うことが重要で、今後も指導に努めます。
  
- 高位平準化を目指す場合、実肥施用や防除の有無などでグルーピングした農家の達成状況を把握し、対処が必要である。取り組み農家数、実肥実施率(50%)、タンパク質含有率9%以上農家割合の3要因の関係性を分析し、次年度の活動計画を策定すべきである。
- R元年が暖冬、後半に肥料切れとのコメントについて、データ取得がないため、エビデンスデータの取得が必要である。
  - 生産者別データを JA から入手し、収量・品質と地域や栽培方法等との関係性を分析し、低位の要因を検討しています。実肥実施率が低い要因は、全量基肥肥料が実肥成分を含み(実肥が必要との認識が低いことにもつながる)、適期が水稻作業との競合する時期であること等が考えられます。これらの結果をふまえ、効率的な支援活動ができるよう努めます。
  
- 面積の拡大自体は、農協の施設稼働と関係し、目標とするには難があるため、単収と品質や、実肥実施率も使用しては、と考える。
  - 適正な施肥や病虫害防除を実施され、目標とする収穫や品質を達成された結果が面積拡大につながるの見解をもとに、数値目標として総合的に判断できる面積という指標を選択しています。
  
- 小麦との収益性比較では、面積当たりだけではなく、労働時間を明らかにして労働所得の評価面も必要ではないか。
  - 経営ハンドブックでは、面積当たりの労働時間は、小麦 4.9 時間、大麦 4.7 時間と試算されており、大麦での赤かび病防除 2 回増加は、無人ヘリによる共同防除を前提としており、労働時間の増加はないものとし、収益性も改善しており、労働生産性も向上するものと考えられます。

## 外部評価会での意見と次年度普及指導計画等への反映状況について

(所属名) 高島農業普及指導センター

- 取り組みの中で共通しているのは、地域等との連携を非常に強化された中で、関係機関とも連携され取り組みをされていると思いました。  
引き続き、JAグループとも連携した中での対応をお願いするとともにご指導・ご支援をお願いします。
- JA マキノ町の加工用たまねぎ生産の活動については、2年目を迎えます。水田を生かした栽培品目が乏しい中で、JAとともに農業者に呼びかけ、取り組みを進めてきました。  
生産に関する機械装備も充実したことから、まずは単収向上と既存生産者個々の規模拡大について働きかけを強め、生産拡大につなげていきたいと考えています。
- 今後、営農指導だけでなく営業方法なども指導範囲となり、滋賀の農業が産業としてもっと活性化できるように助けてください。
- 県東部地域から比べると遅れ気味ですが、今後も技術指導のみでなく、コスト面など経営的な視点からの分析や6次産業化への取り組みを視野に入れ、関係機関との連携のもとに計画的な働きかけをすすめます。